

将来に向けた夢と希望の下呂市再生作り



2 番

今井政良議員

下呂市経済活性化のため、

第一次産業への対応について

農業施策の現状と課題、その対応策は？また森林環境税をどのように活用するのか。第10回全国和牛能力共進会に対する支援策は

◆農林部長

農業施策については、「アグリチャレンジサポート事業」を創設しました。新規就農支援等人材発掘に努力していきます。市内の耕作放棄地については5.3ヘクタールの解消を図りました、今後も解消に努めます。森林環境税の事業は初年度であり制度の周知が十分ではありませんでした。県と協力しながら森林所有者や事業体の皆さんに説明を行い、森林整備をメインに活用していきます。和牛能力共進会へは下呂市の牛3頭が選拔されました。農協と連携し、人的支援はもちろんのこと費用負担も行います。

環境問題について



9 番

一木良一議員

リニア開通に向けた市の方向性と濃飛横断自動車道の工事の現状と今後の予定は

中津川市との連携、交通アクセスについて市の考えと対応についてまた濃飛横断自動車道、金山・和良間の工事予定について

◆建設部長

リニア駅の活用のためには既存の国道257号の整備を含めた濃飛横断自動車道などのアクセス道路の整備が重要だと考えます。

濃飛横断自動車道については、中津川市、郡上市、東白川村と事業促進期成同盟会を組織し、県・国に要望をしております。今年度の工事は金山側坑口の工事に着工予定、和良側は橋梁の上部工を7月に発注済みとなっております。

新エネルギー施策への

取り組みについて

下呂市としての考え、取り組みは前向きに。小水力、太陽光、バイオマス(木材発電)等の研究会開催予定は

◆経営管理部長

市自らが発電事業者になることは想定していませんが、民間活力による導入は大切だと考えています。研究会については、「ぎふ自然エネルギー学校」など国・県の動向を見ながら推進体制を作る中で検討していきます。

④市クリーンセンターは、これからも今まで同様一般市民や一般企業が直接持ち込む廃棄物、又災害ガレキなどの一般廃却物についてしっかりと受入れて行くのか。

◆環境部長

刈り草についてはクリーンセンターで受け入れを行っていきます。ただし専用の破砕機がありませんのでなるべく30センチ以下に切って持ち込みください。災害時のガレキについては一般廃棄物に該当するものはクリーンセンターで受け入れを行っています。

⑤現在も不適正処理を行っている(株)マテリアル東海に対し、下呂市は法的な罰則が伴う厳正な行政処分をすべきと考える。いかがか？今後高裁の判決も「市勝訴」であった場合の対応は

◆市長

第3次裁判では下呂市の主張が認められたと思っています。現在控訴されているが、法令遵守で一般廃棄物行政を行っていきます。



- ①(株)マテリアル東海が現在迄下呂市に対して起こした5件の裁判について、それぞれ掛かった費用と総額について
- ◆総務部長
係争中の裁判を除いた4件で約400万円支出しました。
- ②過去5件の裁判について、その経過や内容を下呂市はどれ程市民に對し情報開示してきたのか。具体的に示してもらいたいのがいかがか。
- ◆総務部長
市から市民に対しての周知は行っていない。
- ③本年7月10日、「下呂市勝訴」の判決が下された。(株)マテリアル東海はそれを不服とし名古屋高裁に「控訴」したが、下呂市は今後「和解」を視野に裁判を進めようとするのか。それとも毅然と戦うのか。
- ◆市長
和解は考えておりません。法令遵守で進めます。

里山整備と取り組みについて


 16 番
二村勝己 議員

下呂市は山又山の山間地、山の恩恵に依り生きて来ました。大切な水を育み、災害を守り、今後も永遠に繁栄する為に今取り組み時期と思う。

①岐阜県では森づくり、川づくりを目的として、森林環境税を創設し、荒れた里山整備を民間団体等に任せる「清流の国岐阜地域活動支援事業」を始めたが下呂市の取り組みは。また獣害対策面からも早急に取組む必要が有るが

◆農林部長

市としては先ず山を再生して活気ある山にしたいと考えており、森林整備をメインに考えています。木材の需要拡大という意味で中学校へ木製の机椅子の導入、ペレットストーブなどの導入も行います。地域住民が制度を利用しながら里山整備に取り組んでいただくよう制度のPRに努めて、市もその活動を支援していきます。地域住民が自然環境を守ることを通じて、地域力を向上していきたい。

②沿道修景事業・冬期凍結予防事業・町や川の見える下呂市の良さを際立たせる事業は

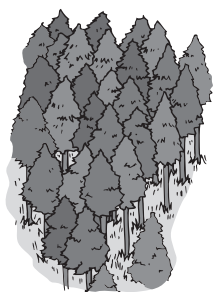
◆建設部長

道路沿線の環境整備は景観上も冬季の凍結予防対策上も有効であると考えます。道路沿線で地元や地権者の理解が得られる場所があれば、その有効性も検証しながら予算化していきます。

③下呂市の山を守り、育てる為に集団間伐も大切であるが、以前のような切捨間伐も、取込む必要があると考えられるが

◆農林部長

木材生産を目的とした人工林の間伐実施については、昨年度から造林補助制度が改正され、集団化した団地での利用間伐が補助用件になりました。しかし団地全体で一定量の間伐材を搬出すれば、団地内での切捨間伐も補助対象となります。切捨間伐、搬出の実情に合わせ効率よく森林整備を行います。



将来の下呂市を考える 新クリーンセンター建設に向けて


 14 番
中野憲太郎 議員

①現在、市内の事業者から受け入れる事業系廃棄物と受け入れ可能な産業廃棄物の料金体制は

◆環境部長

事業系の廃棄物は、50 kgまでは150円、50 kgから100 kgまでは300円です。100 kgを超えた分については10 kg増すごとに30円となつていきます。受け入れ可能な産業廃棄物は50 kgまでは300円、50 kgから100 kgまでは600円、100 kgを超えた分については10 kg増すごとに90円となつていきます。

(いずれも別途消費税が必要)

②市長の一般廃棄物の処理責任は

◆市長

市が責任をもって処理しています。③残菜の収集については、下呂温泉街のみの収集体系のようだが、この収集体系についての見直しは

◆環境部長

現在365日の収集を行っているが、新施設稼動に合わせて見直しを行います。

④現在、四美にある「最終処分場」の使用期限は

◆環境部長

四美区のご協力により増設工事を行いましたのであと10年利用可能となっています。

⑤合併特例債のクリーンセンター整備に使える金額は

◆経営管理部長

約50億円程度を計画しています。

⑥技術の開発等により、問題の無い焼却施設をわざわざ遠方の山の中へ経費を掛けて作る必要があるのか。事業費が膨らむだけでは

◆市長

今まで数箇所の候補地を打診したが白紙状態です。今後の市民負担・ランニングコストを考えたときにごみの排出量の多い地域の近くに建設するのがベストと考えています。

⑦一度断念した特例債充当を逃がすことなく民間の検討委員会任せでなく、市長自らがごみ排出の重心地区、下呂・萩原地区で先頭に立って候補地を決めていく覚悟はあるのか

◆市長

合併した当時から大きな問題であり、やらなければならぬことです。私が先頭に立って進めていきます。議会のご協力も欠かせないのでお願いします。